

七尾市矢田郷コミュニティセンター第2陣派遣：1/18~1/21

神戸市立医療センター中央市民病院 福永 千絵美

災害支援ナースとして避難者の健康管理を目的として活動しようとしたが、避難所としての情報が足りておらず、まず全体像や避難者の情報収集が必要と考え、活動を開始した。そしてそれを得た上で、避難者の健康管理を災害支援ナース2名でどう活動するかということを考えて行った。

避難者は高齢者が多く、杖歩行や車椅子などで自立している方が多いが、段ボールベッドからの転落や、転倒、基礎疾患があり、内服管理をしている方が多かった。普段は自宅で健康管理しているが、それができなくなり、気づいた時には下肢痛や浮腫、高血圧、発熱を起こしていた。どれだけ早期に介入できるかが必要であると感じたとともに、避難所での健康管理の難しさを痛感した。

今回多数の健康管理をする中で、私たちが行ったことは、①200名程の避難者カルテ作成②健康相談会を1日2回開催③継続的な健康観察を要する方のリスト作成④DVT、感染予防に対する声かけ、ポスター作成⑤可能であれば医療スタッフの支援要請を実施した。

避難者カルテを作成したことで、応援の医療支援スタッフへスムーズに申し送りができ、時間を有効に費やせた。健康相談会では、発熱や感染症の異常の早期発見ができ、看護師を頼って来られ、避難者との距離が縮まり、看護師が身近な存在となり、相談しやすい環境を作りができた。また、避難所生活によるDVTや感染症のリスクについてポスター貼付したことで、水分摂取や運動することを心がける声が聞け、活用できた。

今回は2人では困難だと判断し、同時期にきていた支援者や施設スタッフらと連携をとり、医療者だけでなく、多職種で分業をした。また無理をして私たち2人でなんとかするのではなく、早期に医療支援の応援要請をし、より良い支援が提供できた。一人ではない、みんながいるという安心感のもと活動することができた。

今回感じたことは、現場の状況を把握した上で、何が必要なかを明確にし、それを正確に発信して、活動をしていく必要性を感じた。その情報がなければ、ニーズの把握もできない。災害時に現場は困惑することが当たり前であるが、その中でも冷静に現場を評価し、声をあげていけるように努めて活動していく必要があると感じた。

